

青梅市社会教育委員会議2月定例会会議録

平成29年2月21日

201会議室

出席者 委員 8名

事務局 3名

1 開 会

【議 長】先日、都市社連協の理事会が行われた。資料を配布しているので、しっかり確認していただきたい。

また、1月22日に行われた公共施設のこれからを考えるシンポジウムに参加した。この時の資料が非常に分かりやすかったので、配布させていただいた。社会教育関連の今後について気になるところだが、市と周辺環境がどうなっているかが分かる詳しい説明であった。会場は満席でマスコミも来ており関心の高さが伺えた。後程資料をもとに報告させていただきたい。

【課 長】2月の市議会定例議会が2月20日から3月22日までの会期で始まった。昨日の市長の施政方針演説では、梅の里の再生復興、公共施設の再編などがあげられた。社会教育関係では、新生涯学習施設（仮称）の実施設計を進めていく事、青少年健全育成団体の施設使用料免除を来年度の7月から行う事が述べられた。

また、新生涯学習施設（仮称）の基本計画のパブリックコメントを3月1日から16日の間行うことになっている。

2 報告事項

(1) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会
について (報告資料1)

ア 日 時 平成29年2月14日（火）15時00分から

イ 場 所 八王子市生涯学習センター（クリエイトホール）

ウ 出席者 新藤議長 事務局土屋

【事務局】事務局から報告。

【議 長】協議事項で定期総会の予算が検討された。予算案の支出も検討されたが、ブロック研修会の費用が据え置きになっている。今年度は予算を戻したブロックがあったようだ。ブロック研修費は全額使い切らなくてはならないわけではなく、余ったら本部会計に戻すことができることがこれで分かった。また、活動記録の作成費が大幅に減額して計上されている。説明としては、今まで外注していた印刷等を事務局が行うという事であった。会長市の事務局が大きな負担になる懸念がある。予算上は予備費が多く組まれているので、前年度の予算額とあまり変わらない。事務局としてはこの負担は気にならないのか。

【事務局】負担はあると思うが、決まった事であるなら従う。しかし、これだけ切り詰めて予算を組むと、予算が逆に余っていく事になるのではないかと。

前、予算に多くの余剰が出て問題になった経緯もある。バランスよく収支を行い、年度で余剰があまり出ないようにすべきなのではと感じた。

【委員】予備費が多くなっているのに切り詰めているのは、矛盾を感じる。社会教育は実績と記録が大事だと思う。記録に対して自前でやれというのはいかがか。予算の関係もあるだろうが、冊子類を記録として残すという考えであれば、ちゃんと予算を取って社会教育の記録を保管するという考えを持つべきではないだろうか。記録は紙媒体だけではない、インターネットにあげたり、CDに焼いて記録する等、記録メディアは変わっていくので、未来に向けて最適な形を模索していく事が必要ではないだろうか。

(2) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会要
録について (報告資料2)

【事務局】事務局から説明。

【議長】お目通しいただきたい。

(3) 青梅市社会教育委員会議1月定例会会議録について (報告資料3)

【事務局】事務局から概要説明。

(4) その他

【議長】公共施設のこれからを考えるシンポジウムに関して報告させていただきたい。手元の資料をもとに説明したい。シンポジウムは、基調講演の後パネルディスカッションが行われ、青梅市長を含む4名が登壇した。そこで市長がこの資料を使って説明を行った。公共施設が今後どうなっていくか、社会教育施設がどうなっていくか先を見通した貴重な資料になると感じたので配布させていただいた。

冒頭の青梅市の現状と課題について、減少する人口と高齢化の進展という事で、平成47年度までのデータが出ている。人口減は国同様、青梅市も減少していく予測で、平成47年には10万人を割る予測になっている。

次に、財政状況について、人口が減少していく事での税収減や扶助費の増大などで、今後の財政状況がひっ迫するのは必然であり、投資的経費を切り詰めていかなければならないという事であった。

次に、建物の老朽化が迫っているという資料。青梅市には328の公共施設があり、築30年以上が73.6%を占める。これだけの量が更新の順番待ちをしている状態。それに対する保全費用、維持費用は1年あたりに平準化すると44億円かかることになる。これではすべての施設を維持することは不可能である。

そこで、市の施設維持に関する基本的な考え方が示された。

1つ目に、原則新規建設は行わない。

2つ目に、すべての公共施設を統廃合や複合化の対象とし、公共施設のマネジメントを一元的に行う。この2つ目が今回の市民会館を閉鎖し、複合施設と

して建替えるという事につながってくる。

3つ目が更新する必要がある施設が出た場合、民間の施設利用が可能かを検討する。その後どうしても無理な場合は複合化して建設する。

4つ目が施設を1機能1施設の施設重視の形から、機能により施設を見直す機能重視の発想に転換し、集約化や複合化による施設機能維持と機能集約を図り施設保有量の適正化を推進する。

これら4つが示され、今後は施設の拡充でなく施設の縮充というやり方でやっていくという事であった。詳しくは、他にも資料が出ているので、読んでいただければ今後青梅市が進む方向の概要がつかめるのではないかと思います、概略を説明させていただいた。

【委員】青梅市はかなり早い段階で様々な施設を建ててしまったので、建物が時代遅れになっている。市民会館は音響などの設備が良くない。建替えて新しい複合施設ができるのは良いと思うが、中途半端になってしまったらよくない。青梅市は市民センターがたくさんある。これは他市にはない特徴だと思う。これをどう活用するか、どうしていくかを考えていかなければいけない。市民センターは考えているのか。

【事務局】市民センターも含めて考えている。

【議長】基調講演で、一番焦点に当たったのが学校施設であった。これは聖域ではないと言っていた。学校も見直しの対象となっている。

【委員】高齢化、人口減は進んでいく。収入に合わせた予算を作っていかなければならないので、統廃合は仕方がないのでは。

【委員】昭島市では小学校の校庭に施設を作って利用していくという事が決まったとの事。昭島市は防衛補助があるのでそういった施設もつくれる。昔は青梅市も防衛補助が出たので学校の設備にお金をかけられたが今はない。

地元の新町市民センターの稼働率は高く、いろいろな地区から利用に来る。青梅市は路線バスがあるが、コミュニティーバスのような細かく地域をつなぐ交通がない。人の移動がうまくできれば統廃合しても他地域の方も通えると思うが、今は地域ごとに距離があって通うのが難しい。

【委員】施設を早く作ったところはどうにもならない。新しい施設は上手に使っていけばよいが。

【議長】シンポジウムで出ていたが、地区の再編に向けての動きもあるのか。

【委員】支会の区割りは11だが、民生委員の区割りは6。学校の学区とも合っていない。入り組んでいてどうしようもない状態。その辺も考慮に入れた発言ではないか。

【議長】自治会館の話も出ていて、子育て支援の場にするとの事だった。

【委員】公共施設の統廃合はとても関心がある。今回資料を見て、学校が聖域でないとか、福祉施設や市民センターはどうなっていくのかと考えると、子供の居場所がこれからどうなっていくのか。青梅市は他市に比べ面積が広い。過疎的な地域や、密集した地域、交通機関が不便なところもある。それだけ施設が分散してあったという事はうなずける。それが統廃合されてしまうことに

よる不安がある。身近な市民センターの役割が統廃合という事になれば、地域のコミュニティや子供の居場所づくりの場が、市民センターに変わるものを考えていかなければいけないのかなと思った。

【委員】小曾木に住んでいるので、子供も減っているし、人口も減っている。高齢化もしている。地域では、小曾木の学校と地域を考える会という任意の団体が、第6支会と一緒に協働して様々な事をやっている。ここで中学生以上の地域の方に意識アンケートを行った。約50%の回収率を得て、現在集計中である。集計している意見では、地域の人が触れ合えているなどという事を感じる。地域が好きだが、これから車が運転できなくなったら不安だ等、不安に思うことが多く書かれていた。コミュニティバスの希望が多く出ていた。学校が地域の拠点になるという事を言っていたが、地域のみんなが集まれる場所は学校が中心なのではと思う。学校が多世代交流の場になっていったらいいし、社会教育とはそういうことかなと思う。学校教育も大事だが、小さいころから近所の人たちに大事に見守られながら育つ地域の子は宝だと思う。

【委員】あきる野市では、おばちゃんが小学校に入って漢字を教えたり等、地域と学校が密着しているという発表があった。

【委員】学校でも地域とつながりを持つという事はやっている。他面、セキュリティの問題もある。そこをどう区切っていくのが難しい。地域の状況でだいぶ変わってくる。地域連携は学校も進めている事、積極的にお互いが寄り添っていく事は大事だと思う。

【委員】公共施設で明星大学のことは出ないのか。あそこはもったいない。

【事務局】青梅市は明星大学と協定を結んでいて、何かある時は使えるようになっている。総合防災訓練の会場や市内のサッカーや野球のグループが利用するなど開放してもらっている。しかし、セキュリティの関係で外施設しか開放できないのが現状。今月社会教育課で明星大学を使った美術の講座を行う。その際は青梅市教育委員会が借用して、職員が立ち会うという事で、校舎内を使わせてもらう。いい施設であるので、今後も施設を借りて生涯学習事業を行っていきたいと考えている。

【委員】経営的な事は分からないが、たまに校舎に行くと、清掃等管理が行き届いている。映画の撮影などでは使っているが、管理体制をきちんとすれば会議等で使うことは可能だと思う。

旧市街を川を挟んで丘の上から眺められるロケーションがとても素晴らしいと明星大学に勤めていて思った。教育施設なので、青梅市民に開放すべきだと思う。本来、街に大学という教育機関があるという事は誇るべき事。客観的にみて良い施設を有効活用する。例えば、ヨーロッパではレジデンスと言って、街にある施設を利用して海外から人を呼ぶという事を行っている。徳島県では、紙を作っている会社の施設を使って、ペーパーワークのレジデンスを募集したところ90人くらい海外からのエントリーがあった。文化庁からも予算が付き、年に4人だが、外国人と日本人でそこに滞在して様々な作品を作り、小学校などの施設で授業をするなど、新しい文化を伝える、地方に還元するという事を

行っている。明星大学に限らず、統廃合されて使わなくなった施設を使って、このような外国人を呼んで若い青少年に異文化を伝える、コミュニティ醸成に役立つ施設にしてはどうか。青梅市は環境がいいので可能性があると思う。新しい施設を作ることも重要かもしれないが、縮充というのは、今ある施設をいかに再生して新しいものを生み出すかという事だと思う。自分たちが青梅に住んで良かったと思える街にするかが本来は大事だと思う。

3 協議事項

(1) 第48回関東甲信越静社会教育研究大会静岡大会の分科会事例発表について (協議資料1-1、2)

【事務局】事務局から概要説明。

【議長】事例発表については見送る。大会については、時期が近づいたらまた出欠を確認する。

4 その他

【事務局】その他の配布物について説明。

次回定例会 平成29年3月21日(火)